

大学サッカーフェスティバル in 島原

派遣期間：2023.03.05～03.08

中国アカデミー 藤岡 慶梧

今大会のテーマ

自分を魅せろ！



今大会における自分の目標

今大会における僕自身の目標としては、

- ①これまでのアカデミー活動で学んだことを試合でしっかりと発揮し、そこからアドバイスをいただき、さらなるレベルアップにつなげる
- ②常にアンテナを張り、他地域の方々からの学びを得る

という目標をもって広島を発ちました。具体的なレフェリングの目標は、試合前にまた別に設けて臨みました。

①の目標に関しては、これまでに宮部さんや原田さん、森近さんをはじめとするインストラクターの方々やアカデミー生をはじめとする審判員の方々から学ばせていただいたレフェリングの技術を試合で表現し、そこから新たな学びを得ていきたいと考えておりました。

②の目標に関しては、レフェリングだけでなく立ち振る舞いなどオフ・ザ・ピッチにおいても他地域のインストラクターおよび審判員の方々から様々な観点からの学びを深めようと考えて臨みました。

大会一日目

鹿屋体育大学 vs.法政大学 A2 アセッサー：阿久津憲仁さん（東北）

大会初日は、A2としてのスタートでした。この試合では、鹿屋体育大学、法政大学ともに強度が高く、僕が今大会観させてもらった試合の中でも特にインテンシティの高い試合であったように感じました。この試合では、主審は関西 RACの方が担当されていたのですが、ファウル後のマネジメントにおいてとても勉強になったと感じました。**どのタイミングでどの選手にどのようなマネジメント（声掛け）**を行うのかが的確であると感じました。選手にプレーに集中してもらうためにはマネジメントが欠かせないと思いますが、当試合のレフェリーの方のマネジメントは、選手がレフェリーを信頼してプレーに集中してもらえるようなものであったため、マネジメントの手法について多くのことを学ばせてもらいました。

夜 研修会

1日目の夜は、レフェリングスタンダードに関する研修会でした。泉さんからの話を伺いました。レフェリングスタンダードのお話を伺う中で、自己分析能力を高めていかなければならない（正しく、冷静に）という

キーワードをいただき、今後自身のレフェリングについて振り返る際も細かく事象を分析し、現場で観て判断した事象と映像に違いが生じないようにもっと自己分析能力を高めていくことの必要性を感じました。

また、心に残るレフェリングを行うレフェリーになれというキーワードもいただきました。このキーワードから、レフェリーとしての自分の良さや強みをどうピッチで表現するかということにもこだわっていくことの重要性も再認識しました。今大会のテーマでも「魅」という文字が使われていたように、どうすれば魅力を感じていただけるレフェリーになれるのか、魅力ある審判員として一目置かれるためにはどんな要素が必要となるのかといったように、自分のレフェリングを「魅せる」ためにも自分自身をもっと深掘りしていきたいと思います。



大会二日目

法政大学 vs. 桃山学院大学 R アセッサー：伊藤真也さん（北海道）

二日目はレフェリーとして法政大学 vs. 桃山学院大学を担当させていただきました。率直な感想としてはスピード感がとても速く、強度もとても高いと感じました。この試合で意識した点としては、状況に応じて、試合展開に合わせた動きとポジショニングを試合を通じて続けるということでした。そのことに関しては伊藤さんからは、1試合を通じての**距離感**が良いとのコメントをいただきました。しかしながら、この試合において課題となったのは、**マネジメント**と**判定基準**でした。マネジメントに関しては、ファウルが起こった後に選手が納得していないときの対応が的確なものではなく、選手との信頼関係をもっとうまく築くべきであったと思いました。また、判定基準に関しては、どこにどの部分がどのように接触したのかというひとつひとつのファウルへのフォーカスがまだまだ甘かったと感じました。マネジメントについては、ほかの審判員の方々の試合を観させていただいてマネジメントの手法をもっと学んでいきたいと思います。また、判定基準に関しては、1日目の夜にもお話しいただいたように、自己分析能力を高めて、判定基準の精度を高めていきたいと思

ます。

夜 研修会

2日目の夜の研修会では、1，2日目で自身が主審を務めた試合におけるトピックを一つ取り上げ、アカデミー生で議論することを行いました。映像では、笛でプレーを止めていたことに選手が気づかず、プレーを再開してしまい、ゴールに入ったものや、選手と衝突してしまったポジショニングに関するものなど多岐に渡るものがありました。僕の映像としては、判定基準（ホールディング）に関するものを挙げました。様々な映像を細かく分析し、アカデミー生の意見を交換し合うことで自分自身の引き出しを増やすことができたと思います。そのため、今後においても多くの方々と意見交換を行い、自身の引き出しを増やし、試合において実践していきたいと思います。

大会三日目

立正大学 vs. 日本文理大学 R アセッサー：阿久津憲仁さん

大会最終日となった三日目は、レフェリーとして締めくくりました。この試合では、前日の課題点を踏まえて、ファウルの後の的確なマネジメントを意識して行いました。また、動きとポジショニングについても引き続き意識して臨みました。前日の試合よりもうまくいった点としては、選手とのコミュニケーションを通じて判定に納得してもらえた場面が多くあったと感じたため、**マネジメント**に関してはこの試合においては的確な手法を用いることができたのではないかと感じました。反対にこの試合における課題は、**動き**であったと感じました。どのタイミングで動き出すのか、どのコースに動き出すのかという部分が試合中の状況にマッチしておらず、動き出しが遅れたり、直線的な動きが試合を通じて多くあったと思います。阿久津さんには、次何が起こるかの**予測**が甘かったというご指摘をいただきました。これらの予測や動きに関しては、次に何が起こりそうかを常に意識しながら状況に応じたスムーズな動きをとることができるように試合中もっと頭をフルに回転させていく必要があると思いました。

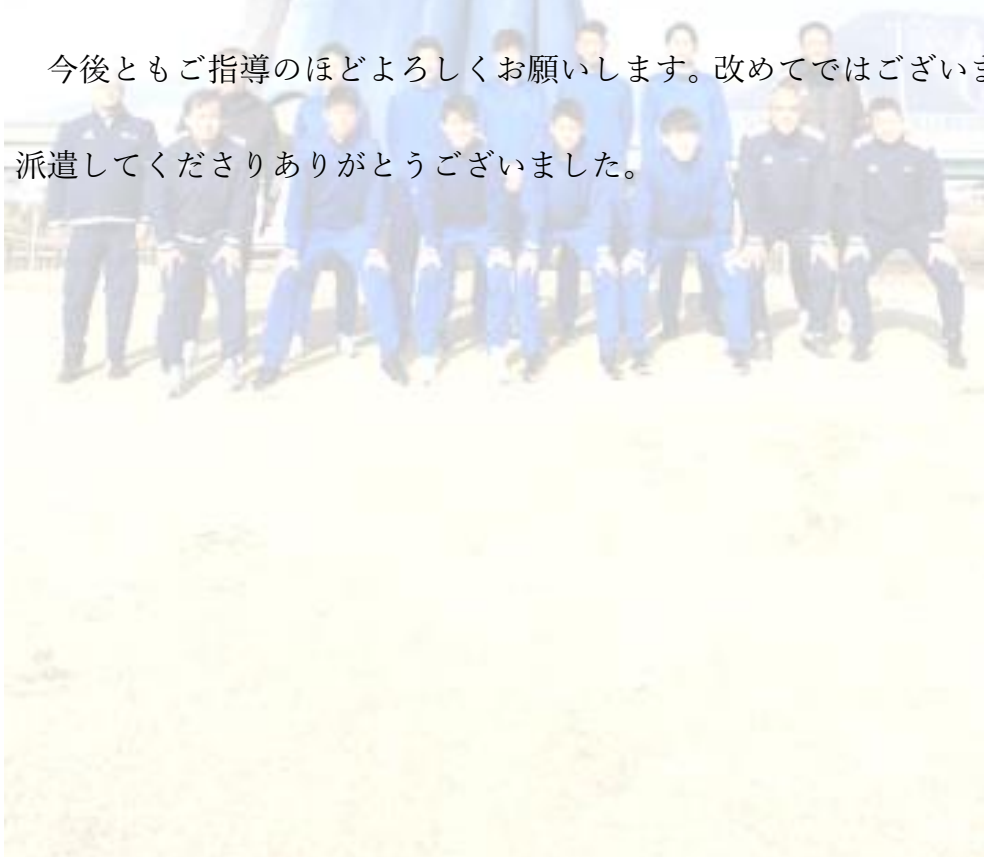
総括

以上が今大会における収穫でありました。まず、①の目標に関しては、これまでに中国アカデミーを通じて学ばせてもらったことを意識して発揮することができたと思います。その中で、**マネジメント**や**動き**、**判定基準**などもっと追求していかなければならない課題を見つけ出すこともできました。これらの課題を今後改善し、よりよいレフェリングを行っていくために、上記のように**自己分析能力**を高めていき、振り返りと実践を繰り返して成長し続けられるように取り組んでいきたいと思います。また、②に関しては、レフェリングだけではなく、食事などの交流を通じて気付きを増やすことができたと思います。大会期間中、積極的に審判員やインストラクターの方々とコミュニケーションをとることを意識し取り組んだ中で、新たな考え方や着眼点、インストラクターの方々との接し方や審判員とのかかわり方など自分にはなかった引き出しが多くあったため、大会を通じて学びを深めることができました。今後も試合だけではなく試合以外の部分でも学びを深めることができるように、常にアンテナを張って過ごしていきたいです。

最後に

最後になりましたが、このような素晴らしい機会に中国アカデミーとして派遣してくださりありがとうございました。自分に足りていないものを再認識するきっかけとなり、また、他地域の方々との交流を通じて学びの多かった大会でありました。今大会で学んだものを今後の活動に活かしていきます。今大会のテーマでもあったように自分を「魅せる」、また、心に残るレフェリーになることができるように本気で取り組んでいきたいと思えます。

今後ともご指導のほどよろしく申し上げます。改めてではございますが、派遣してくださりありがとうございました。



おまけ

今大会の開催地が、温泉地島原ということで、宿泊ホテルの素敵な露天風呂のロケーションの共有をして締めくくらせていただきます。

